



町田市では、市内のどこに、どんな生きものがいるかを調査するため、皆さんから野生の生きものの写真と見つかった場所の情報を集めています。スマホに、市民通報アプリ「まちヒカ町田くん」をダウンロードして、生きものの発見レポートを送ってください。調査対象の生きものは、野生のほ乳類、鳥、両生類、は虫類、魚、野草9種類、昆虫8種類。送っていただいた素敵な写真は、ホームページなどで紹介されるかも！（乱獲・盗掘を避けるため、貴重な生きものの生息地は公表しません）

「生きものの発見レポート」募集！
スマホでの生きものの調査にご協力を



外来種、特にウシガエルが入るとヤゴや他の生きものも食べ、元々生息している生きものが減り、自然環境が大きく変わってしまいます



ニホンノウサギ



里山や谷戸の緑が深いところでは、運が良ければニホンアナグマやノウサギに出会えることも。一方、田んぼで見られるカエルはアマガエルやトウキョウダルマガエルなど。田んぼが減少している今日、町田にいるカエルの中には絶滅危惧種もあり、その他市内にはムササビをはじめ、約60種類以上の絶滅危惧種が貴重な命をつないでいるのだ。

守ろう、絶滅危惧種

町田には鶴見川・境川の源流があり、ヒガシシマドジョウなど源流域のきれいな水に生息する希少な魚も確認されている。市街地の川ではモツゴ、オイカワ、コイ、アブラハヤ、クロダヘなどが見られるが、貴重なホトケドジョウに出会えることも。薬師池は生態系が川と異なり、モツゴやスズエビなどが生息している。一方、トンボも池と川とで見られるものが異なり、夏の川で見られるハグロトンボは黒い翅をひらひらさせて飛ぶ姿が実に優雅。まっすぐに飛ぶシオカラトンボは薬師池など止まった水辺で観察できる。



ハグロトンボ



ホトケドジョウ

町田で見られる野生の生きもの

様々な場所でたくさんの生きものに会えます。緑地では木々の影に隠れて見つけるのが大変ですが、水辺では比較的容易に生きものを探しが楽しめます。また、忠生公園内のがにやら自然館には標本の展示もあり、生きものスペシャリストが自然観察会を担当します！

その他の生きもの

ニホンアナグマ
通年



爪は鋭く、体型はずんぐりとして、食性はタヌキとほぼ同じ。巣穴を掘り、冬は約5カ月間冬眠する。

イノシシ
3~9月



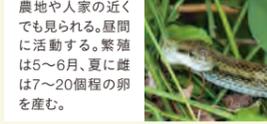
黒茶色の硬毛で覆われ、吻は円筒状に突出。夜行性で根菜類が主食。町田では相原などで確認されている。

ニホンカナヘビ
3~9月



全長約16~25cm。トカゲの仲間。森林や草地、耕作地に生息。性質はおとなしく、飼育下ではよく慣れる。

アオダイショウ
3~9月



農地や人家の近くでも見られる。昼間に活動する。繁殖は5~6月、夏に産卵は7~20個程度の卵を産む。

魚など

シマドジョウ
通年



絶滅危惧II類。河川の汚染が進んだ昭和50年代に多くが姿を消した。清流の平瀬から瀬の砂底を好む。

モツゴ
通年



池や湖に生息する淡水魚で、別名クチボソ。環境変化や水の汚れに強く、底生動物や付着藻類を食べる。

オイカワ
通年



シリビレが大きく、産卵期の雄には鮮やかな婚色が見られる。昆虫や石に付着したけい素などを食べる。

サワガニ
通年



甲幅約25mm。紫黒色や茶褐色、乳白色などの体色がある。河川上流域に生息、砂礫や小石の多い場所を好む。

虫

ミドリシジミ
6~8月



前翅長16~23mm。緑に輝く美しいオスに対し、メスは黒で、青や赤の紋があるものやないものなど個体変異がある。

カブトムシ
6~8月



体長32~53mm。オスは光沢のある黒褐色~赤褐色で、頭部に立派な角をもつ。メスは角をもたず、茶褐色。

アカスジキンカメムシ
夏



大きさ17~20mm。緑色地に赤色の模様美しい大型のカメムシ。死ぬと、暗緑色になる。比較的臭さは少ない。

トゲアリ
4~10月



全長6~8mm（働きアリ）。黒色で赤褐色の胸部に3対の鋭いトゲを持つ。朽木の内部などに巣をつくる。

鳥

メジロ
通年



全長約12cm。目の周りが白く、体色は黄緑色。梅や桜など冬から春にかけて咲く木の花の蜜を好む。

キビタキ
夏



全長13.5cmの夏鳥。オスは鮮やかな黄色が目立ち、メスは地味な暗緑色。木の穴、建物のすき間などに巣をつくる。

カルガモ
通年



全長60cm。全体に黒褐色で、顔は白っぽく、二本の黒褐色線がある。河川、池沼、海上など水辺に棲む。

オオルリ
夏



全長16.5cm。山地の渓流沿いでよく見られる。メスは地味な色彩だが、オスは濃いブルーの背中白いおなか。



ヤマトタマシ

ゲンジボタル

地元住民が中心となって水質改善を進めている谷戸池。市の協力も得て官民一体の保全活動が進められている

地域住民が協力して取り組む保全活動もある。小山田桜台まちづくり協議会では、年々透明度が下がり、外来種が増えつつある谷戸池公園の水質改善や周辺地域の清掃、タマシの餌となる腐敗した桜の幹を確保してタマシの保護を行うなど、精力的に活動している。小山のホタルと自然を守る会はホタルの飛び交う片所谷戸とその周辺の自然保護を目的に1998年に片所町内会の会員を中心に結成された。毎月、草刈りや清掃を実施し、谷戸の景観・環境保持と安全確保を行っている。

02 自然を守る



町田でも自然環境が変化し、国蝶であるオオムラサキも減少している

町田市内では自然保全や生きものを守る活動も多数進められている。エコネット町田では恩田川・真光寺川・境川の定期清掃やごみ減量など環境改善の活動、近隣小中学校への環境学習を展開。その一部会である真光寺川を清流にする会では、真光寺川の清掃や年に1度真光寺川まつりを開催し、川に親しんでもらっている。NPO法人鶴見川源流ネットワークは、恩田川の会、わんどの会、鶴見川源流自然の会など11の市民団体と連携しながら、保全、調査、教育活動で豊かな自然を将来へ継承している。鶴見川源流保水の森、みつやせせらぎ公園、小山田緑地、高ヶ坂松葉調整池でも連携活動を進めている。



子どもたちも多数参加する真光寺川を清流にする会の川まつり(右)と鶴見川源流ネットワークのこども交流会

